

学力を確実に上げよう

「学習の3段階理論」を一日も早く確実に身に付けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

Q：学力を確実に上げるためにはどうしたらよいのですか。1学期の定期テストや実力テスト、模擬試験、英語検定などでよい点数を取るにはどうしたらよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)学力を確実に上げるためには、「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の「3つの段階」に分けて、1つ1つの「段階」にふさわしい方法、やり方をすることをお勧めします。開倫塾では、これに「学習の3段階理論」と名前を付け、塾生の皆様にお勧めしています。

これから、その内容を説明します。現在の成績を少しでも上げたいと希望する方は、その中に今やっていない内容が1つでもあったら、少しずつでもよいですから自分の意志、自分の力でそれに取り組んで下さい。自分の意志、自分の力で学力を上げるのだと強く決意し、次の内容を少しずつでもやり抜けば、すべての試験でよい点数が取れます。学力は必ず上がります。

Q：わかりました。それでは、「学習の3段階理論」について教えてください。

A：(1)はい。ただし、「学習の3段階理論」に取り組む前に、大切なことが1つあります。それは、「学習」という漢字の意味をよく知ることです。

(2)「学習」の「学」は、「学ぶ」という意味です。「学ぶ」とは、「これはこのようなことだと、よくわかること」「理解すること」だと私は考えます。英語の「study スタディ」にあたります。

(3)「学習」の「習」は、「習う」という意味です。「習う」とは、「一度うんなるほどとよくわかったこと」「理解」したことを何回も何十回も繰り返し勉強し直して、「スミからスミまで自分のものとする」「身に付けること」「定着させること」だと私は考えます。英語の「learn ラーン」にあたります。

(4)つまり、「学習」には、「うんなるほどとよくわかる、理解すること」(study)という意味の「学ぶ」と、「一度うんなるほどとよくわかったこと、理解したことを身に付ける、定着すること」(learn)という意味の「習う」の2つの意味があるということです。

この「学習」の2つの意味を念頭に置いた上で、「学習の3段階理論」に取り組んで下さいね。

Q：はい、わかりました。では、次はどうしたらよいのですか。

A：次の1つ1つの項目の下にある□に、自分が今とてもよくやっていたら、普通にやっていたら、少しやっていたら、やっていなかったら×とのどれか1つの印を付けて下さい。

(1)《理解》(うんなるほどとよくわかること、腑に落ちること)

〔授業中の理解〕

授業中は、手を机の上に置き、先生の目を見て熱心に授業を聴く。先生の指示に従って、積極

的に授業に参加する。

授業中、必要なことはすべてノートに取る。

授業を欠席・遅刻・早退しない。また、忘れ物をしない。

授業中には、私語(おしゃべり)・居眠り・ケータイ・他のことを考えることをしない。

〔授業後の理解〕(復習)

授業後に、授業中に勉強した「教科書」「教材」「問題集」「ノート」をもう一度勉強し直す。

授業中に勉強した計算や問題はもう一度やり直す。

よくわからない語句は、辞書や用語集、学年別参考書を用いて調べる。調べたことは、意味調べノートや単語帳、ノートに書き写し、いつも1ページ目から読み直す。

〔授業前の理解〕(予習)

授業の前には、その日に授業で勉強する「教科書」「教材」「問題集」を予めよく読む。わからない語句は、辞書や用語集、学年別参考書を用いて調べる。調べたことは、意味調べノートや単語帳、ノートに書き写し、いつも1ページ目から読み直す。教科書や教材、問題集にある計算や問題をすべてノートに解いてみる。

* 「復習」と「予習」で最も大切なのは、「辞書」の活用です。わからない「ことば」や「語句」があったら気持ちが悪く感じ、「辞書」をどんどん引いて意味を確かめる。辞書で調べた内容は必ず「ノート」などに書き写し、その「意味」を何回も何十回も読み直して、自分のものにする。これが成績向上の秘訣です。ことばは力です。辞書を引き、言語力を身に付けましょう。

(2) 《定着》(一度うんなるほどとよくわかった・理解したことを確実に身に付けること)

〔音読練習〕

一度うんなるほどとよくわかった・理解した内容について、「教科書」「教材」「問題集」「授業中のノート」「意味調べノート(語句ノート)」などを大きな声を出して読む。スラスラ読めるようになるまで読む。何も見ないで正確にスラスラ言えるようになるまで、何十回も何百回も声を出して読む(これを「音読練習」という)。

〔書き取り練習〕

一度うんなるほどとよくわかった・理解した内容で、「教科書」「教材」「問題集」「授業中のノート」「意味調べノート(語句ノート)」などの内容の中でよく書けなそうな語句については「楷書」(かいしょ、教科書の書体)で正確に書けるようになるまで何回も書いて覚える(これを「書き取り練習」という)。

* 「音読練習」と「書き取り練習」をするときには、特に、「～は...だ」という「定義」(ていぎ、ことばの意味)は何も見ないで正確に言え、楷書で正確に書けるようにすること。

〔計算・問題練習〕

なぜそのような解答になるのかが、一度うんなるほどとよくわかった・理解できた計算や問題(教科書や教材、問題集、授業中のノートにある計算や問題のすべて)を何回も何十回も繰り返しやり直す。そして、計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまでにする(これを「計算・問題練習」という)。

